

1 受賞団体・個人の名称

たかはしせいちゃ

株式会社高橋製茶(大分県臼杵市)

(問い合わせ先)

TEL0974-32-4219



(経歴)

平成3年に現社長の雄三氏が就農。父親の英雄氏が誤って農業を被ったことがきっかけになり、平成元年から有機栽培を開始し、親子2代にわたり試行錯誤しながら、安定生産技術を確立した。平成13年、「有機農産物」と「有機農産加工施設」の有機JAS認証を取得し、それを機に株式会社高橋製茶を設立した。

有機農業が盛んな臼杵市において、先導的な役割を担い、地域の有機農業の拡大に多大な貢献を果たしている。

(受賞時の経営内容)

茶 4ha

2 生産面の取組

①剪定作業で生じた枝葉をほ場内に敷きつめることで保水性を高めるとともに、土壌改良を行っている。このため、栽培土壌中の微生物や昆虫を含めた小動物の生態系が発達しており、生態系のバランスの上に有機農業に適した土壌ができあがっている。



②有機質肥料は油粕や魚粕を主体にした混合肥料を施用している。化学肥料とは違い遅効性のため、時期を前倒して年間数回に分けて施肥するなど慣行栽培とは施肥体系を違えている。栽培暦では毎年10a当たり2tの堆肥投入を目標にし、土壌分析による肥料分の過剰蓄積に注意を払っている。

③病害虫のこまめな観察により、深刈りや中刈りの時期と刈り込み程度の調整をして病害虫の被害を防止している。二番茶後の中刈りにより被害枝葉の除去と樹冠の通風が図られ炭疽病及びハダニ類の発生を抑えている。

また、スプリンクラーによる散水もカイガラムシ類の発生抑制に役立っている。

④特に「貧乏かずら」(ヤブカラシ)は手作業で丁寧な除去に努めている。

3 経営面の取組

①地元老舗デパートと大型スーパーに自前のアンテナショップとして2店舗出店し、直接消費者の声を聞き商品作りに反映する等販売面の強化にも力を入れている。

②安全・安心な食文化を大切にする方針が評価され、平成20年から地元寿司チェーン店に粉末緑茶を年間3.2t納品している。このように外食産業との取引にも目を向けている。

③日本の安全で美味しい有機茶を海外に展開したいと考えて、平成19年に香港に試験的に輸出した後、本格的な輸出に向けて商談会に年3~5回程参加している。

4 取組の成果

①長年にわたる取組が周辺の生産者へ波及し、行政も有機農業推進の気運が高まり、臼杵市が有機農業の里を目指すきっかけとなった。

②臼杵市有機農業企業者誘致条例の制定(平成19年)、市地域振興部に有機農業推進室の設置(平成22年)及び市独自の「ほんまもん農産物認証制度」の創設(平成23年度)等に繋がっている。

5 地域社会への貢献

①大分県茶業協会の会員として、量販店での販売促進活動に積極的に参加し、PR活動を行っている。また、メディアの取材にも積極的に応じており、お茶の消費拡大に役立っている。この場合、自社の宣伝だけでなく、有機農業や環境保全型農業の考え方や重要性についてもアピールしている。

②また、販促イベントでは社長の高橋氏自身が店頭に立ち、試飲を行うとともにお客様の声や意見を収集し、今後に生かそうとする姿勢が見られる。また、社員も日々の研鑽を積み、お客様に喜んでもらうための工夫をしている。

③消費者や地元小中学生との体験交流も積極的に行い食育や農業の大切さを伝えている。

④大分県立農業大学校卒業生を新規採用するなど、地域雇用創出にも貢献している。

